

会 議 録

【事業番号6 市民大学講座開催費】

- 1 会議名：平成27年度第3回市民行政評価委員会（事務事業第2回）
- 2 日時：平成27年10月28日（水）午後3時30分～3時55分
- 3 場所：議会第4委員会室
- 4 出席者：

（1）市民行政評価委員会委員

岡田委員長、山崎委員、林委員、寺尾委員、安嶋委員、  
上井委員、江口委員、倉谷委員、島木委員、出口委員

（2）事業担当課：生涯学習課

小寺課長、小坂係長

（3）事務局：行政経営課

村角課長、石山課長補佐、吉田係長、佐藤主査

5 審議内容

評価委員：事業費の内訳（平成23～26年度決算）（事前質問）

事業担当課：資料（追加提出）参照

評価委員：生涯学習の方法として、講演の手法が有効なのか疑問を持った。授業でも一方的な講義スタイルではなく、対話の中で考えが深まるということから双方向型・参加型へと変わりつつある。市民大学講座は、受講者数がかかなり多いので、質疑応答は難しく、一方的に話をするだけ、聞くだけという状態では。

事業担当課：講師によっては質疑応答の時間を設けている方もいる。

評価委員：例えば少人数で話し合い、考えを深めるようなやり方もある。担当課としての考えは、他にもいろいろな生涯学習の事業をしている中で、こういった講演形式があってもよいのではないか、ということか。

事業担当課：そのとおりである。

評価委員：受講者数は券の販売数か、入場者数か。

事業担当課：実際の入場者数である。

評価委員：以前、6枚セットで購入したことがあるが、仕事の都合などで2回しか受講できなかった。そのような場合も収入になるのか。

- 事業担当課 : そのとおりである。実際は入場者数以上の券が販売されている。
- 評価委員 : 何割か受講していない方がいるのか。
- 事業担当課 : 都合が悪い、体調が悪いなど個人の都合で欠席される方が何割かいる。
- 評価委員 : アンケートに金額の妥当性の設問がない。良かったかどうかを尋ねるのであれば、“受講料を踏まえた満足度”を尋ね、金額の妥当性を検証すべきではないか。その上で満足度が高ければ、受講料の引き上げ等の検討材料にもなる。
- 事業担当課 : 今年度第6回目が11月開催される。それに向け早速参考にさせていただきたい。
- 評価委員 : 講師謝礼は概ね50万円が目安か。
- 事業担当課 : 個々により差異はあるが、交通費や宿泊代を含め概ね50万円程度だ。
- 評価委員 : 21世紀美術館において著名な建築家の講演会が時々開催されているが、これらと連携し、もう少しダイナミックに、多様なジャンルの講師を取り入れても良いのではないか。横の連携を図ることで、回数を増やすとともに受講料を下げ、選択肢を広げるなどしてはどうか。
- 事業担当課 : 21世紀美術館のイベントに合わせて市民大学講座の日を設定し、美術館の講師を市民大学講座にお呼びし講演してもらおう、ということか。
- 評価委員 : そうではなく、21世紀美術館は21世紀美術館、市民大学講座は市民大学講座で実施する中で連携し、いろんなジャンルの方に講演していただけないか、ということである。
- 事業担当課 : 確かに、ジャンルについては、専門的な方の公演ならば関連する分野の学生も来てくれるかもしれない。そのあたりも含めて、学生が参加してくれるような内容を考えていきたい。
- 評価委員 : これまで何度も受講しているが、これで良いのだろうか、と疑問に感じることもある。講師の人選にかかる担当課の苦勞は察するが、一般の市民がどのような話を聞きたいかの調査・分析が不十分と思われる。顧客満足度の追求が少し弱いように感じるので、アンケートの中身を見直してください。

- 評価委員：「講演」と「講座」は何か違いがあるのか。民間でも著名な方の講演会を開催しているが、市民大学講座との棲み分けがされているか。一次評価中の「開催手法や形式については、市民ニーズ等を踏まえて検討を行っていきたい。」というコメントにその辺に対する考えが織り込まれているのか。
- 事業担当課：いろんなジャンルの講師をお呼びして、市が設定したテーマに沿った講演を6回通して聞いていただき、そこで学んだ成果を人づくり、まちづくりに繋げていただきたいと考えている。来年度は、ご指摘の観点も掘り下げ、講師や内容などを考えていきたい。
- 評価委員：言葉の使い方としては、「講演」は単発の開催で「講座」はシリーズ開催という解釈でよいと思われる。
- 評価委員：アンケートを見ると、70代以上がもっとも多い。また、講座の各回の日程を見ると、第1回目だけが休日の日中に開催されており、それ以外は平日の夜間に開催されている。平日夜間の開催が多いのは、70代以上の方が参加しやすい時間帯を考慮したため、ということか。
- 事業担当課：例えば昼間お勤めの方などが仕事帰りに受講しやすいよう、夜間に設定している。
- 評価委員：70代というとお勤めしていない方の方が多い。日中に開催された他所の講演会では、退職後と思われる団塊の世代の男性が沢山参加しており、椅子に座れない方もいたほどであったので、日中の方が集まり易いと思う。あえて夜間を選んでいるとすれば疑問である。
- 評価委員：本来は若い人にも受講してほしいという狙いで、仕事帰りに参加しやすい時間帯に設定されている。しかし、実際のところは高齢者が多く参加しているということではないか。
- 評価委員：どこにターゲットを置いて講座の内容を決めているのだろうか。
- 評価委員：学生など若い方の参加を引き出すため、違う手法を使ったりお呼びする講師を少し変えてみたりする必要があるのかもしれない。例えば、若い人の意見を聞いてみるなど。
- 評価委員：もう少し中身を考えてみる必要がある。
- 事業担当課：若い方が沢山参加されて、当日券を配ることもある。やはり講師によ

るのかな、と思う。講師の人選も含め、若い方にも参画していただけるような講座にしていきたい。

評価委員：若い人達も取り込みたいとなると講師に呼ぶ方を選ばなければならないし、内容も選ばなければならない。

評価委員：講師の人選は、東京のプロダクション等にあるメニューをもとに決めているのか。

事業担当課：そういったケースもあるし、直接連絡をとって依頼するケースもある。アンケート結果に基づき依頼しているのだが、スケジュールや予算的な面で折り合わず、断念するケースもある。希望する講師をお呼びできるように早め早めの調整に努めてきたい。

#### 上記審議を踏まえた各委員の評価

##### 見直し(8)

- ・魅力的な講座とするために、さらなる工夫が必要である。
- ・アンケートで受講料と講座内容の適合性を確認するなど、顧客ニーズを捉える必要がある。
- ・若い人が興味を示すテーマや講師の選定が必要である。
- ・受講者の年令を踏まえた講師と内容、開催日時を考えるべきである。

##### 継続(2)

- ・財政負担が少ない。
- ・参加者年令に偏りがあることはやむを得ない。

#### 評価結果

##### 見直し

より魅力的な講座とするため市民ニーズや受講者満足度を的確に捉え、幅広い年齢層に対応したテーマ設定や講師の人選、開催手法など、事業内容を見直す必要がある。